

平成29年10月5日

文化庁 国立近現代建築資料館
「紙の上の建築 日本の建築ドローイング 1970s—1990s」の開催について

この度、文化庁国立近現代建築資料館では、企画展示「紙の上の建築—日本の建築ドローイング 1970s-1990s」展を開催する運びとなりました。

今回の展示では、一般的な設計図書とは異なり、自立した作品とも呼べる建築ドローイングに着目し、1970年代から1990年代に自らの建築への想像力を紙の上という際限のない世界に託した11人の建築家たちの作品資料を紹介します。(別添資料)

【開催概要】

- ・ 名 称：紙の上の建築 日本の建築ドローイング 1970s－1990s
- ・ 会 期：平成29年10月31日（火）～平成30年2月4日（日）
- ・ 会 場：文化庁国立近現代建築資料館
（東京都文京区湯島4－6－15 湯島地方合同庁舎内）
- ・ 開館時間：10：00～16：30
- ・ 休 館 日：11月25日（土），12月29日（金）～1月3日（水）
- ・ 主 催：文化庁
- ・ 協 力：公益財団法人東京都公園協会
- ・ Web サイト：<http://nama.bunka.go.jp>

【プレス向け展示説明会等について】

一般公開に先立ち、平成29年10月30日（月）12：30～、プレス向け展示説明会等を開催します。取材をご希望される方は別紙取材申込書をFAXにてお送りください。

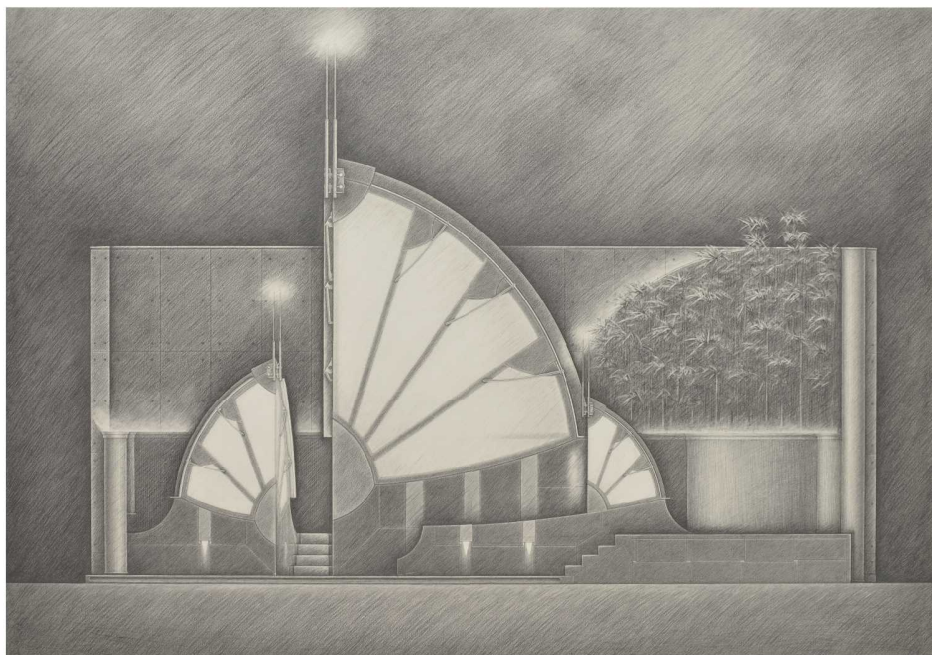
＜ 担 当 ＞ 文化庁長官官房政策課
課長 杉浦 久弘（内線 2803）
課長補佐 土居 孝一（内線 2804）
電 話：03-5253-4111（代表）

＜問合せ先＞ 国立近現代建築資料館
係長 富田 祐子
電 話：03-3812-3401（資料館係直通）
E-mail: nama@mext. go. jp

紙の上の建築

Architecture on Paper : Architectural Drawings of Japan 1970s – 1990s

日本の建築ドローイング 1970s—1990s



①EARTHTECTURE SUB-1 / 高松伸建築設計事務所蔵

出展建築家

渡邊洋治

磯崎新

藤井博巳

原広司

相田武文

象設計集団

安藤忠雄

毛綱毅曠

鈴木了二

山本理顕

高松伸

1970年代から90年代に自らの建築への想像力を紙の上に託した11の建築家たちによる建築ドローイングを紹介します。

展覧会概要

建築におけるドローイングとは、一般的には「図面」のことです。その中にはスタディのためのスケッチから設計図、施工図、プレゼンテーションのために美しく着彩され陰影を施されたレンダリングなどが含まれます。しかし、ときに建築家たちは、このような設計—施工のプロセスからは相対的に自立した世界を紙の上に追求しました。

日本では特に大阪万博以後 1970年代から 1980年代にかけて、建築ドローイングの表現は大きな飛躍をみせます。ポスト戦後という時代に、建築家たちは実務上の要求を超えて、多くのエネルギーをドローイングに注いでいきます。画面は大きくなり、技法は多様化し、ひとつの独立した作品として鑑賞されるものとなります。建築家たちは何故それを描いたのか。彼らが紙の上に求めたものは何だったのか。ひとつの建物が竣工するということだけでは必ずしも完成しない、建築家のヴィジョンがそこには示されています。

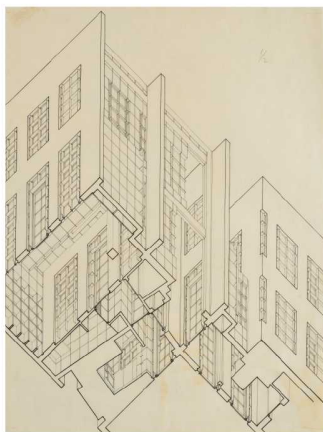
1990年代に CAD (computer-aided design) が普及してからは、設計図面が手で描かれることもなくなり、ドローイングによる表現は衰退していきます。ポスト戦後の建築家たちが描いたドローイングは、時代の中でどのような意義を持っていたのか、今それらは私たちに何を問いかけるのか。そのことを考えるために本展示は生まれました。

本展の見どころ

- ◆ 1970年代から90年代にかけて建築系雑誌の誌面を飾った建築ドローイングの実物を展示！

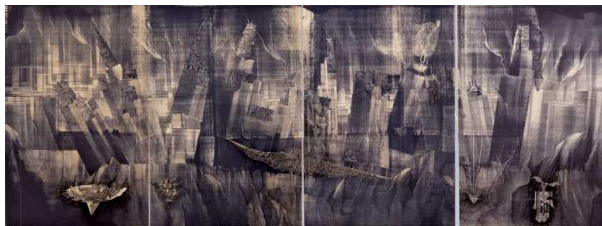


②竹富島自立宇宙茶羅 / 象設計集団蔵



③宮田邸
藤井建築研究室蔵

- ◆ 毛綱毅曠による屏風「建築古事記」全7作品を特別展示！（※会期の前半と後半で展示替えを行います。）



④建築古事記 / 毛綱毅曠建築事務所蔵

- ◆ 磯崎新、原広司、高松伸、藤井博巳の各氏が自身の建築ドローイングについて語る映像を展示。
- ◆ 本展示が初公開となる建築資料を多数紹介。

ゲストキュレーター

戸田穰（とだ・じょう / 金沢工業大学准教授）

朽木順綱（くちき・よしつな / 大阪工業大学准教授）

日笠直彦（ひの・なおひこ / 建築家、芝浦工業大学非常勤講師）

元岡展久（もとおか・のぶひさ / お茶の水女子大学准教授）

シンポジウム 植田実 × 中谷礼仁

出展建築家と同世代であり、雑誌『都市住宅』を初めとした建築メディアで活躍する編集者・植田実氏と建築史家の中谷礼仁氏（早稲田大学教授）を迎え、「建築ドローイングと日本建築 1970s-1990s」と題して、お話を頂きます。

2017年12月2日（土）14:00～16:00

司会：戸田穰

会場：建築家会館 大ホール

定員：120名（当日先着順・参加費無料）

ギャラリートーク

展覧会会期中に特別ゲストと本展ゲストキュレーターによる計4回のギャラリートークを行います。

※出演者は都合により変更する場合があります。

1. 「建築ドローイングの時代」

2017年11月4日（土）14:00～

塚本由晴（アトリエ・ワン、東京工業大学教授）

2. 「Possibilities on Papers 紙の上の可能性」

2017年12月17日（日）14:00～

ケン・タダシ・オオシマ（ワシントン大学准教授）

3. 「毛綱毅曠とその時代」

2018年1月20日（土）14:00～

藤塚光政（写真家）

× 難波和彦（当館主任建築資料調査官、東京大学名誉教授）

4. ゲストキュレーターによる作品解説

2018年1月27日（土）14:00～

展覧会カタログ

展示作品の図版、作品解説とともにゲストキュレーターによるテキスト等を含んだカタログを展覧会場にて無料配布致します。

広報用図版

図版①～④を広報用にご提供致します。ご希望の方は、使用条件をご確認の上、下記までお申し込みください。

Email: nama@mext.go.jp

【使用条件】

※広報用図版の掲載には各図版のキャプション、クレジットを必ず表示してください。

※情報確認のため、校正用原稿を事前にお送りください。

プレス向け展示説明会・取材申込書

平成29年10月30日（月） 12：30～13：30

FAX03-3812-3407へ御返信ください。

御氏名

電話03-3812-3401 / FAX03-3812-3407

建築におけるドローイングとは、一般的には「図面」のことです。その中にはスタディのためのスケッチから設計図、施工図、プレゼンテーションのために美しく着色され陰影を施されたレンダリングなどが含まれます。しかし、ときに建築家たちは、このような設計－施工のプロセスからは相対的に自立した世界を紙の上に追求しました。

日本では特に大阪万博以後1970年代から1980年代にかけて、建築ドローイングの表現は大きな飛躍をみせます。ポスト戦後という時代に、建築家たちは実務上の要求を超えて、多くのエネルギーをドローイングに注いでいきます。画面は大きくなり、技法は多様化し、ひとつの独立した作品として鑑賞されるものとなります。建築家たちは何故それらを描いたのか。彼らが紙の上に求めたものは何だったのか。ひとつの建物が竣工するということだけでは必ずしも完成しない、建築家のヴィジョンがそこには示されています。

1990年代にCAD（computer-aided design）が普及してからは、設計図面が手で描かれることもなくなり、ドローイングによる表現は衰退していきます。ポスト戦後の建築家たちが描いたドローイングは、時代の中でどのような意義を持っていたのか、今それらは私たちに何を問いかけるのか。そのことを考えるために本展示は生まれました。

紙の上の建築

Architecture on Paper : Architectural Drawings of Japan 1970s – 1990s

日本の建築ドローイング 1970s—1990s

シンポジウム

建築ドローイングと日本建築 1970s —1990s

12月2日[土] 14:00 — 16:00

植田実(住まいの図書館出版局編集長)×中谷礼仁(歴史工学家、早稲田大学教授)

司会: 戸田穰(金沢工業大学准教授)

会場: 建築家会館 大ホール

定員: 120名(当日先着順・参加費無料)

ギャラリートーク1

11月4日[土] 14:00 — 建築ドローイングの時代

塚本由晴(アトリエ・ワン、東京工業大学教授)

ギャラリートーク2

12月17日[日] 14:00 — Possibilities on Papers 紙の上の可能性
ケン・タダシ・オオシマ(ワシントン大学教授)

ギャラリートーク3

1月20日[土] 14:00 — 毛綱毅曠とその時代

藤塚光政(写真家)×難波和彦(当館主任建築資料調査官、東京大学名誉教授)

ギャラリートーク4

1月27日[土] 14:00 — ゲストキュレーターによる作品解説

出演者は都合により変更する場合がございます。

イベントの詳細については、当館ホームページでご確認ください。

<http://nama.bunka.go.jp>

Architectural drawings are what are commonly referred to as “plans”. They may take the form of preliminary sketches, design drawings, construction drawings, or beautifully colored and shaded presentation renderings. Sometimes, however, architects may also construct imaginative worlds on paper that stand independent of any actual design-to-construction process.

In Japan, architectural drawing made great strides particularly after the Osaka Expo, in the period spanning from the 1970s to the 1980s.

The architects of this post-postwar period poured extensive energy into developing their drawings beyond practical requirements. Sheets grew larger, techniques diversified, and drawings came to be appreciated as works of art on their own. Why did these architects make such drawings? What did they seek to achieve through their work on paper? When we look at the drawings, what we see are visions that would not necessarily be completed even if they were constructed as buildings.

Ever since CAD (computer-aided design) came into wide use in the 1990s, hand-drawn architectural plans have become rare, and the art of drawing has fallen into decline. What significance did the drawings of the post-postwar architects have in their time? What questions do they pose for us today? This exhibition was conceived to reflect upon these themes.

アクセス Access

千代田線「湯島駅」1番出口より徒歩8分

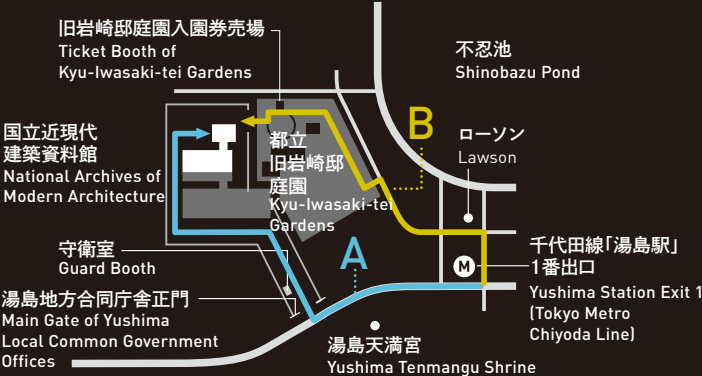
8-min. walk from Exit 1 of Yushima Station
(Tokyo Metro Chiyoda Line)

入館方法 Entry

国立近現代建築資料館への入場方法は2つあります。
There are two ways to enter the National Archives of Modern Architecture.

A. 展覧会のみ観覧(平日のみ利用可)
湯島地方合同庁舎正門よりご入館ください。入館料無料。
都立旧岩崎庭園には入場できません。
A. To view the exhibition only (open on weekdays only)
Please enter from the main gate of the Yushima Local Common Government Offices. Admission is free. Visitors are not allowed entry into the Tokyo Metropolitan Kyu-Iwasaki-tei Gardens.

B. 都立旧岩崎邸庭園と同時観覧
都立旧岩崎邸庭園よりご入館ください。
旧岩崎邸庭園入園料(一般400円)が必要となります。
B. To view both the exhibition and Kyu-Iwasaki-tei Gardens
The National Archives of Modern Architecture may be entered from the Kyu-Iwasaki-tei Gardens. [admission 400 yen]



紙の上の建築

Architecture on Paper : Architectural Drawings of Japan 1970s – 1990s

日本の建築ドローイング 1970s—1990s

展覧会期 Period

2017年

10月31日[火]

2018年

2月4日[日]

開館時間 Open hours

10:00—16:30

休館日 Closed

11月25日[土]・12月29日[金]—1月3日[水]

ゲストキュレーター Guest Curators

戸田 穰(金沢工業大学准教授) TODA Jo

朽木順綱(大阪工業大学准教授) KUTSUKI Yoshitsuna

日笠直彦(日笠建築設計事務所、芝浦工業大学非常勤講師) HINO Naohiko

元岡展久(お茶の水女子大学准教授) MOTOOKA Nobuhisa

会場 Venue

文化庁 国立近現代建築資料館

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

〒113-8553 東京都文京区湯島4-6-15 湯島合同庁舎内

4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8553, Japan

Tel: 03-3812-3401 Fax: 03-3812-3407

<http://nama.bunka.go.jp/>

文化庁

国立近現代建築資料館

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

上図: 藤井博巳《A氏邸》

藤井建築研究室蔵

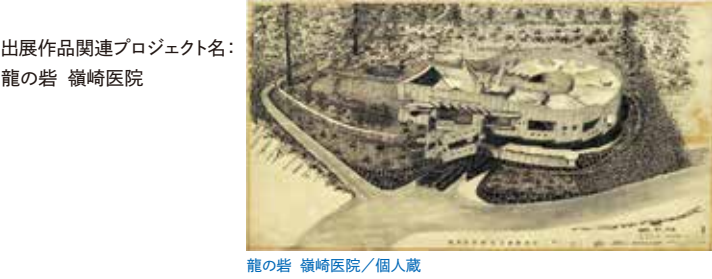
下図: 高松伸《先斗町のお茶屋》

高松伸建築設計事務所蔵

渡邊洋治 WATANABE Youji

新潟県出身 1923.6.14 ～ 1983.11.2

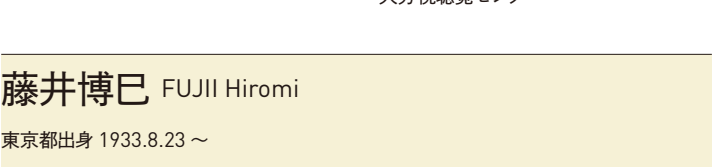
1941年新潟県立高田工業高校卒業後、日本ステンレス株式会社営繕課に勤務。1944年従軍。戦後は久米建築事務所を経て、1955年より早稲田大学の吉阪隆正研究室の助手としてヴェネツィア・ビエンナーレ日本館などの設計に携わる。1958年渡邊建築事務所設立。モダニズムの構成要素を、独自の造型言語によって解釈したダイナミックな空間を構想した。最高裁判所庁舎など国内外の設計競技においても注目された。1983年逝去(満60歳)。



磯崎 新 ISOZAKI Arata

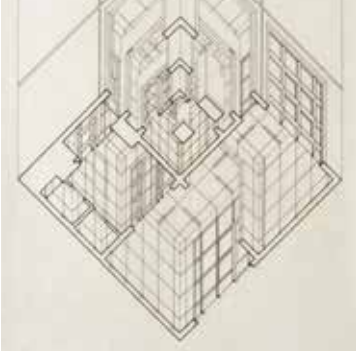
大分県出身 1931.7.23 ～

1954年東京大学工学部建築学科卒業後、同大学院進学。丹下健三研究室で「東京計画1960」などのプロジェクトに参加。1963年磯崎新アトリエを設立。60年代から70年代にかけては出身地大分県、隣県福岡県を中心に多くの建築作品を残す。60年代以降旺盛な執筆活動と設計活動をインタラクティブに交錯させ、日本における近代主義以後の建築界を主導。設計競技の審査員や展覧会・国際プロジェクトのコミSSIONナーとしても影響力をもつ。



藤井博巳 FUJII Hiromi

東京都出身 1933.8.23 ～

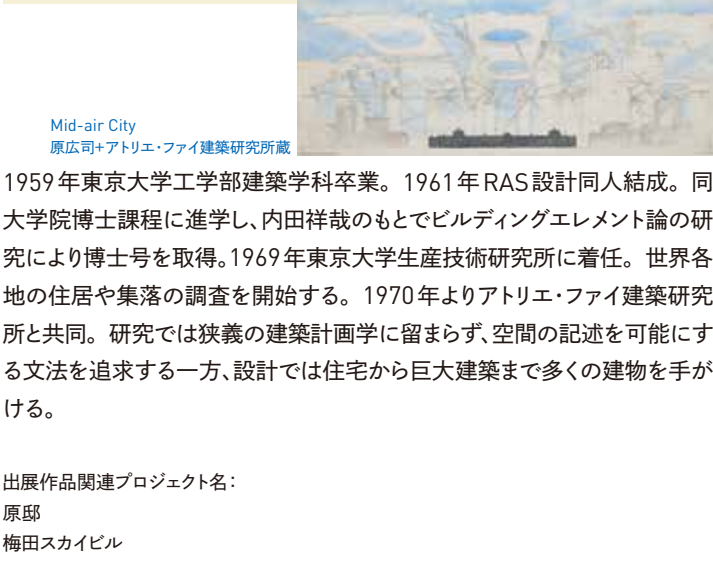


1958年早稲田大学第一理工学部建築学科卒業後、同大学院武基雄研究室に在籍。1964年よりイタリア、イギリスに滞在。1968年帰国し藤井博巳建築研究室設立、芝浦工業大学に着任。建物の表面にグリッドを連続させた「負性化」シリーズ、異なる大きさのグリッドを重ね合わせた「宙吊り」シリーズなど形式的な強い空間構成を追求した。

出展作品関連プロジェクト名：
A氏邸
等々力邸
宮田邸

原 広司 HARA Hiroshi

神奈川県出身 1936.9.9 ～



紙の上の建築

Architecture on Paper : Architectural Drawings of Japan 1970s - 1990s

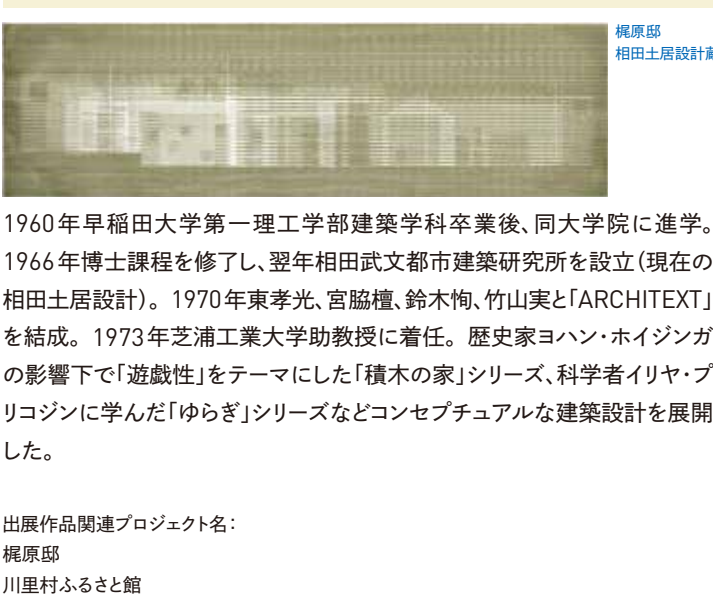
日本の建築ドローイング

1970s—1990s

出展建築家紹介

相田武文 AIDA Takefumi

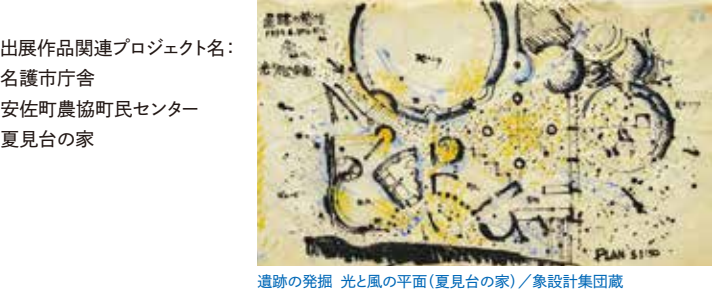
東京都出身 1937.6.5 ～



象設計集団 Atelier Zo

1971-

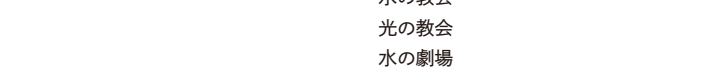
1971年、吉阪隆正が主宰するU研究室に所属していた大竹康市(1938-1983)、樋口裕康(1939-)、富田玲子(1938-)、重村力(1946-)、有村桂子(1942-)により設立。本土復帰前から沖縄に入り、数々の自治体の都市計画基本構想策定に携わるとともに、「今帰仁村中央公民館」(1975)、「名護市庁舎」(1981)などを実現。互いに強い個性をもちながらも集団設計に取り組み、建築とは何かを問い、その土地の気候・風土・文化にわたる固有性を建築に表現している。



安藤忠雄 ANDO Tadao

大阪府出身 1941.9.13 ～

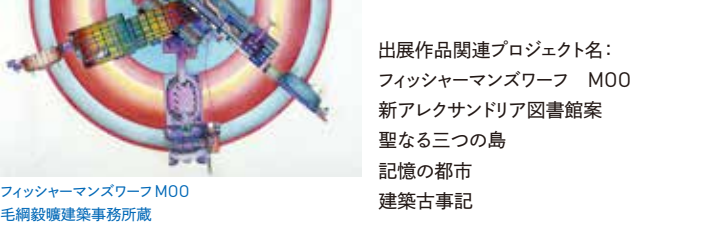
1959年大阪府立城東工業高等学校卒業後、独学で建築を学ぶ。1969年安藤忠雄建築研究所を設立。「住吉の長屋」(1976)に代表される打放しコンクリートの表現と幾何学的な空間構成で国内外で高い評価を得る。京阪神地区を中心に多くの公共建築を手がけ、またベネッセアートサイト直島では中心的な役割を果たしている。1997年東京大学に着任。2003年文化功労者、2010年文化勲章。



毛綱毅曠 MOZUNA Kikoo

北海道出身 1941.11.14 ～ 2001.9.2

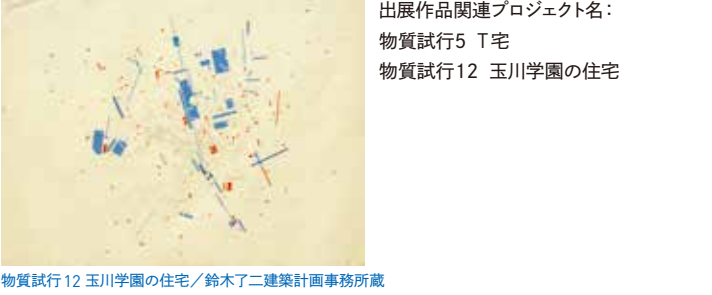
1965年神戸大学工学部建築学科卒業後、同大学にて向井正也研究室の助手を務め、「毛綱モン太」の名で執筆・設計活動を開始。1976年東京に移住。この頃、毅曠と改名し、毛綱毅曠建築事務所設立。「釧路市立博物館」など釧路市を中心に多くの作品を残す。曼荼羅などの仏教文化や釧路に残るアイヌ文化、同時代のSFやアメリカン・コミックスなどが重層する独自の表現を繰り広げた。1995年多摩美術大学に着任。2001年逝去(満59歳)。



鈴木了二 SUZUKI Ryoji

宮城県出身 1944.8.1 ～

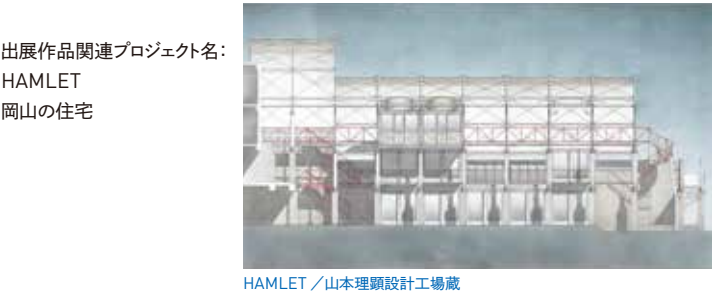
1968年早稲田大学建築学科卒業後、竹中工務店設計部に入社。1970年fromnow設立(1982年鈴木了二建築計画事務所に改称)。1973年に竹中工務店退社。1975年～1977年早稲田大学大学院修士課程池原義郎研究室。1997年より早稲田大学に着任。1973年より自身の作品を「物質試行」としてナンバリングし、建築に留まらず、家具、写真、映画、インсталレーション、アート・プロジェクト、批評など、メディアにとらわれずに多くの作品を制作している。



山本理顕 YAMAMOTO Riken

中国北京市出身 1945.4.15 ～

1968年日本大学理工学部建築学科を卒業。1971年東京藝術大学大学院を修了し、東京大学生産技術研究所原広司研究室の研究生となり世界の集落調査に参加。1973年山本理顕設計工場設立。2007年横浜国立大学大学院教授に着任。原広司の住居集合論の影響下で、「領域」と「閾(しきい)」の概念による住居空間の配列形式を追求。また、社会制度とそれに対応した空間の形式の関係を批判的に考察した。



高松伸 TAKAMATSU Shin

島根県出身 1948.8.5 ～

1971年京都大学工学部建築学科卒業後、同大学院進学。並行して川崎清+環境建築研究所にて設計実務に携わる。1980年同大学院博士課程修了、高松伸建築設計事務所設立。1997年京都大学に着任。京都という厚い歴史的重層性をもつ都市の中で、1980年代前半に「織陣I」(1981)を代表とする正面性の強い建築とそれらのドローイング作品を発表。装飾性を忌避せず、石と金属、ガラスとコンクリートによる硬質で機械仕掛けのように精巧な表現を展開した。

